

〈解答〉

- ① 1 ① しゅっぱん ② 映 ③ 刻 ④ うる
⑤ 賛成

2 下一段活用・連体形(両解)

3 ア

4 ウ

- ② 1 才

2 〔例〕明記

- ③ 1 かたよ 2 れいさい

3 きやつか

4 退

5 円熟 6 發揮

7 おか

8 かんれき

9 よいん

10 逆

11 奮起

12 担任

配点 各1点 22点満点

〈解説〉

- ①

1 ① 「帆」の訓読みは「ほ」。「帆」を使った四字熟語「順風満帆(じゅんぷうまんぱん)」は、「物事がすべて順調に進行していることのとえ」として用いられる。

② 「映える」は「鮮やかに見える」「引き立って見える」という意味。なお、「映」という漢字には、「は(える)」以外に「うつ(る)」「うつ(す)」という訓読みもある。
③ 「刻」の音読みは「コク」。「彫刻」の場合の「刻」は「きざむ」、「深刻」の場合「きびしい」、「遅刻」の場合は「時間」という意味で用いられている。

④ 「潤む」は「湿り気を帯びる」という意味。なお、「潤」という漢字には、「うる(む)」以外に「うるお(う)」「うるお(す)」という訓読みもある。また、「潤」の音読みは「ジュン」で、「豊潤」「利潤」とった熟語として用いられる。

⑤ 「賛成」の同義語は「同意」、対義語は「反対」。

2 「あふれる」に「ない」を付けると「あふれない」となり、「ない」の上が「エの段」になつていることから、「あふれる」が、下一段活用の動詞であることがわかる。また、「あふれる」は、「木々」という名詞を含む文節にかかる連体修飾語になつていることから、連体形であるとわかる。

3 「竜頭蛇尾」とは、「頭は竜のように立派なのに、尾は蛇のように細くて、前と後とのつりあいのとれない」という意から、「初めは勢いがよいが、終わりのほうになると振るわなくなる」という意味になる。

4 「絵画」は、似た意味の漢字を重ねた熟語で、「ためる」「たくわえる」という似た意味の漢字を重ねた熟語、ウ「貯蓄」と同じ構成となっている。ア「着席」は、「席に着く」と読むことができ、下の「席」が上の「着く」の目的語になるとい関係により構成されている熟語。イ「日照」は、「日が照る」と読むことができ、上の「日」が主語、下の「照」が述語という関係により構成されている熟語。エ「疾走」は、「疾く（＝速く）走る」と読むことができ、上の「疾（はやいの意）」が下の「走る」を修飾しているという関係により構成されている熟語。オ「贈答」は、「贈」が「おくる」、「答」が「お返しをする」という意味の漢字で、反対の意味の漢字を重ねた熟語である。

②

1 「うかがう」は「聞く」「尋ねる」などの謙讓語である。よって、「会う」の謙讓語「お目にかかる」が使われている、オが正解となる。ア「召し上がっ（召し上がる）」は「食べる」「飲む」の尊敬語、イ「くださつ（くださる）」は「与える」「くれる」の尊敬語、ウ「ございます」は「ある」の丁寧語、エ「おいでになっ（おいでになる）」は「来る」「行く」の尊敬語。

2 「はつきりと書く」という意味の二字熟語である、「明記」「明示」などを使う。

③

1 「偏」の音読みは「ヘン」で、「偏重」「偏見」などの熟語として用いられる。「かたよる」は、「偏る」以外に「片寄る」とも表記されるが、意味は同じである。また、「偏」のつくりの部分「扁」を用いる漢字には、「編」「遍」がある。意味や使い分けに注意をする。

2 「零細」には「きわめて細かいさま」「数量や規模のきわめて小さいさま」という意味があるが、問題文にある「零細」は、後者の意味。「零」という漢字を使った熟語は、「零細」以外に「零落」「零下」などがあるが、「零落」という場合の「零」は「落ちぶれる」という意味で、「零下」という場合の「零」は「ゼロ」という意味である。

3 「却下」は「願い出などをしりぞけること」という意味。「却」は「しりぞける」という意味の漢字であるので、「退却」という熟語の構成は、同じ意味の漢字を重ねたものということになる。

4 「退」の音読みは「タイ」で、「退避」「引退」「減退」などの熟語として用いられる。「退避」の場合の「退」は「うしろに下がる」「しりぞく」、「引退」の場合の「退」は「身を置いていた場所や地位から去る」、「減退」の場合の「退」は「勢いが弱まり衰える」とい

う意味で用いられている。

5 「円熟」は「人格や知識・技術などが十分に発達し、豊かな内容をもつようになること」という意味で、この場合の「円」は、「欠けたところがない」「満ちている」という意味である。

6 「発揮」は「持っている力などを外に表し出して、働かせること」という意味の熟語。「揮」という漢字には、「手を振り回す」と「外にあらわし出す」という二つの意味があり、「発揮」は、後者の意味で用いられている。

7 「侵」の音読みは「シン」で、「侵入」などの熟語として用いられる。「おかす」には、「侵す」のほか「犯す」「冒す」という同訓異字があるが、「侵す」は「他人の権益を侵害すること」という意味で、「自由を侵す」「領土を侵す」などと使う。一方「犯す」は「刑罰の対象となることをする」という意味で、「罪を犯す」「法を犯す」などと使う。また、「冒す」は「結果に構わず目的のために進むこと」という意味で、「危険を冒す」などと使う。

8 「還暦」とは、「六十年生きて干支えとが生まれた年に戻ること」という意味。「還」は「(元)の場所や状態に)かえる」という意味をもつ漢字。また、「暦」の訓読みは「こよみ」である。

9 「余韻」は「音の鳴り終わった後のかすかに残る響き」「事が終わったあとに残る風情や味わい」「詩文などで言葉に表されていない趣」という意味をもつ熟語。

10 「逆」の音読みは「ギャク」で、「逆転」「反逆」などの熟語として用いられる。「逆転」の場合の「逆」は、「本来の方向、通常の順序などとは反対である」という意味で用いられており、一方「反逆」の場合の「逆」は、「支配や命令にさからう」という意味で用いられている。

11 「奮起」は「勇気や元気をふるいおこす」という意味。「奮」の訓読みは「ふる(う)」、「起」の訓読みは「お(きる)」「お(こる)」「お(こす)」である。

12 「担」は「になう」「かつぐ」という意味をもつ漢字、「任」は「課せられた仕事や果たすべき役目」という意味をもつ漢字で、「担任」は「仕事や役目になうこと、またはその人」という意味になる。つまり、「担任」は、下の漢字が上の漢字の目的語になっているという構成の熟語である。